

ネパールの情熱語る

ネパールの辺境ムスタンで農業発展に尽くすネパール・ムスタン地域開発協力会の近藤亨理事長の講演会が10月10日、役場で開かれました。

近藤さんは昭和51年、国際協力事業団の果樹栽培専門家としてネパールに派遣されました。しかし、70歳で退職後もネパールへ渡り、約200㌔を放牧地、果樹園、畑に変え、学校や病院を建設。標高2750㌔の高地での稲作にも成功し「70過ぎてても命懸けでやればできる。輸入に頼る今の日本の農業を見直そう」と87歳の今もなおネパールでの農業にける情熱を熱弁し、(写真)約70人の聴衆を魅了しました。



黒埼灯台が衣替え

耐震補強が行われていた陸中黒埼灯台の工事が10月28日で終了しました。完成間近の10月22日には、基礎部分の拡幅や防水処理も終了し、最終仕上げの塗装が行われていて、(写真)青い空に真っ白な灯台が印象的でした。黒埼灯台は、昭和22年4月、地元の黒崎漁協が組合員のために「普代灯柱」を設置したのが始まりで、同26年3月海上保安庁に移管されたと周知板に記されています。白亜の灯台は、これからも毎夜船人を守る温かい光を放ちます。

北緯40度

そぞろある記



予防しよう 心疾患

「心疾患を予防しよう」と題して健康講演会(久慈医学談話会主催)が10月8日、役場で開かれました。

講演会には約50人が参加。県立久慈病院の研修医や看護師、薬剤師など7人が、心臓病についての知識や看護、薬の正しい飲み方、心臓に優しい食生活など

について、それぞれが講話しました。(写真)講師らは「減量や減塩、ストレスをためないなどで心疾患は予防できるものが多いです。毎日の習慣に取り入れてください」などとアドバイスしました。参加者の皆さんは「今日から食べ過ぎないようにします」「運動しないとね」と気持ちを新たにしていました。

イカ焼きが大好評!!



写真提供/二戸市

岩手県北、青森県南、秋田県北の3県19市町村の物産や郷土芸能が一堂に会する「トリコロールフェスタinななや」と10月18日、二戸市石切所のカシオペアメッセ・ななやとで開かれました。村でも役場職員が特産品を持ち寄りフェスタに出店。香ばしいイカ焼きの匂いに誘われた皆さんが立ち寄り売れ行きも好調でした。(写真上)特設舞台ではふだい盆踊り保存会(澤口ヨシ代表)一行約30人が軽快な太鼓と踊りを披露しました。(写真下)

ヤマブドウたわわに

鳥居の正路^{まさかづ}さん(73)の畑で、たわわに実ったヤマブドウの収穫が9月下旬から始まりました。10月12日、畑にお邪魔すると、正路さんは深い紫色に熟したヤマブドウを、専用のハサミで丁寧に切り取っていました。(写真)

正路さんがヤマブドウ栽培に取り組んだのは8年前。出荷までこぎつけたのはそれから4年後。その間、害虫やいろんな病気などで、なかなか思うようには収穫できなかったそうです。

「今年はハエが密を吸って、房に穴が空きました。意外と多かったです」と正路さんは残念そうでしたが、「何とか10kg入れのケース約150箱を出荷しました」とうれしそうでした。



普代村の自慢は何?



普代中学校(後忠美校長、生徒91人)の訪問活動「ディスカバリー」が11月7日、村内で行われ1年生27人が、さまざまな職業に理解を深めました。同活動は総合的な学習の一環として企画され、そのうち役場を訪れた5人は「普代パイパスやふだいまつりの予算はいくらか」「職場の自慢は、村の自慢は」など13項目を質問。総務課の中村克成主任が回答すると、熱心にメモを取っていました。(写真)

生徒らは、この日5班に分かれて福祉・医療、製造・販売店など10カ所を訪問。各訪問先では仕事内容や苦労話などを聞き、村を改めて知るきっかけとなりました。



クリスマスはみふねのクリスマスケーキ!

中央区 三船製菓 ☎ 35-2020